

中世より伝える幽玄な舞

第45回東通村郷土芸能保存連合会発表会

1月9日(日)、村体育館において、第45回東通村郷土芸能保存連合会発表会が開催されました。

発表会は、目名神楽会の「平獅子」で幕が開けられ、村内14団体が14演目を演じ、村に脈々と受け継がれてきた伝統の舞が披露され、会場には村内外から多数の観客が訪れました。

無形民俗文化財に指定されたことを記念して演じられて以来、30年振りの復活演目ということもあり、訪れた観客たちにも大変好評でした。

「能舞」「獅子舞」「神楽」と各団体が継承されている演目は異なりますが、どれも中世の舞と音色をそのままに伝えており、その幽玄な舞に魅了されていました。中でも、小田野沢神楽会による歌舞伎「阿漕浦(あこぎがうら)」は昭和55年に村の神楽が県の



1. 平獅子(目名神楽会)
2. つぎあげ三番叟
(老部敬神会)
3. へんざい(鹿橋青年会)
4. 鳥舞(白糠勇清俱樂部)
5. 阿漕浦(小田野沢神楽会)
6. 信夫(砂子又郷友会)
7. 狐舞(蒲野沢青年会)
8. 曾我兄弟(入口青年会)
9. 巴御前(上田屋青年会)
10. 鞍馬の舞(尻屋三余会)
11. 翁(石持敬神会)
12. 鐘巻(大利敬神団)
13. 鈴木(岩屋青年会)
14. 権現舞
(古野牛川敬神会)

